



「J Cチェーンオイルスプレー “ニチモリ”

チェーンやワイヤロープに最適です。

1. 特殊高分子剤により、チェーンやワイヤロープに強力付着
 2. ジェットコースターや立体駐車場等の屋外チェーンに
 3. クレーン車や天井走行クレーンのワイヤロープに
 4. 印刷機械や物流システムのチェーンやワイヤロープに
- 荷姿: 330ml スプレー、4L缶



「磐高物語」 11

旅館の人たちに見送られ、一番バスに乗り込んだ。乗客も私たち四人の他には、林業とダム関係の作業員の人たちが五、六人乗っているだけだった。

ボンネットバスは、桧枝岐を指して九十九折の曲がりくねった道を喘ぎながら登ってゆく。やがて、眼下に桧枝岐の集落が見えてきた。村役場前の停留所でバスは止まり、作業員の人たちは皆降りてしまった。

四人だけになった私たちに、運転手さんが声をかけてくれた。

『七入まで行くのは、今日が初めてなんだよ。今年は雪が深かったし、お客様も居なかったからね』と、ベテラン運転手らしく親切に教えてくれた。

バスは、新緑の中を縫うように走り、雪解け水が流れる清流の中を川原の石をゴロゴロ踏みしめながら車体を軋ませて走った。終着停留所・七入と書かれた看板のあるところで降ろされた。

『尾瀬の旅・第二日』

運転手さんが車を降りて『尾瀬沼には、その道を真っ直ぐ登っていいくんだよ』と、教えてくれた。

◇

私たちは、テントや食料の詰まった重いリュックを背負い、五万分の一の地図と磁石を頼りに、高度差約三百m距離にして約五・五キロ先の沼山峠を目指した。

広葉樹林の清しい緑の中を小川のせせらぎや小鳥の声を聞きながら足取りも軽く歩いた。しばらくして大木さんが

『この辺で、飯ごう炊いて飯にしないか』と、言った。

『もう少し登ったところで飯ごうにすっぺ』と、誰かが言った。

これが大きな間違いだった。歩けば歩くほど水の音は遠ざかっていった。針葉樹林の中に入り水の音は途絶えた。皆空腹でしゃべる気も無くしていた。

やっとの思いで沼山峠越え、大江湿原の端にたどり着いた。ニッコキスゲの黄色いジュウタンが、微笑みながら私たちを待っていてくれた。 “ブラボー”

☆ あとがき ☆



経済産業省・中小企業庁の「がんばる中小企業 300 社」に選ばれ、先月の3,4日高輪プリンスホテルで催された表彰式と展示会に参加してきました。

たった一人ゼロからのスタートで創業した弊社が、45年にして初めて世の中の皆様に認められたことはとても嬉しく感謝しています。茂木経産大臣の言葉にありました“自我作古”後世の礎になれるよう頑張ります。